

【環境審議会】会議概要

会 議 名	令和元年度第2回環境審議会				
事 務 局	環境部長・川口 弘、環境政策課長・須藤 純二、ごみ減量推進課長・太田 照生、足立清掃事務所長・大谷 博信、生活環境保全課長・祖傳 和美				
開催年月日	令和元年9月9日（月）				
開催時間	15時30分から17時15分まで				
開催場所	足立区役所12階1202会議室				
出 席 者	田中 充	ぬかが和子	土屋のりこ	水野あゆみ	戸荻 建作
	大峽 廣男	小泉 俊夫	佐藤 強士	茂木 福美	枝光 弘味
	中村 重男	古地八重子	工藤 信		
欠 席 者	百田 真史		高山 のぶゆき		
会議次第	別紙のとおり				
資 料	令和元年度第2回足立区環境審議会資料				
そ の 他					

(田中充 会長)

定刻になったので、令和元年度第2回足立区環境審議会を開会する。

本日は、委員定数15名のうち、出席者が13名で、本日の審議会が成立していることを報告し、本日の議事録の署名人を大峯委員と枝光委員にお願いする。

それでは、配付資料の確認を事務局からお願いする。

(須藤純二 環境政策課長)

事前にお送りした足立区環境審議会の資料と、本日、席上に配付した資料が2種類ある。

本日の次第、裏面には前回の審議会でもいただいた質問の回答が記載されている。こちらは後ほど説明する。もう一つは、前回の議事録である。

(田中充 会長)

まず、次第の裏面について説明をお願いする。

(須藤純二 環境政策課長)

前回の審議会でも、中村委員から区役所のペーパーレスと照明のLED化について質問があり、担当に調査をしてまとめたので、回答する。

まず、区におけるペーパーレス化の取り組みについて報告する。文書管理システム全体としては、30年度は59.63%、約6割がペーパーレスとなっている。紙の書類はPDF化する場合もあるが、紙でなければならないものもあるので、それを除けば、83.86%がペーパーレスとなっている。

また、議会や庁内の会議でもタブレット端末を活用し、なるべく紙を配らないようにしている。議会もタブレット化されているので、これからも進んでいくと考えている。できるだけ紙を削減してい

く取り組みを継続して進めていきたい。

続いて区の照明のLED化について、本庁舎をはじめとした区の公共施設、小中学校、街路灯、公園の中の公園灯について各担当にヒアリングをした。

区の公共施設については、2009年度から新築や大規模改修の時期を捉え、LED化を進めている。全体の約23%、本庁舎は約42%がLED化されている。引き続き、改修の時期等にあわせてLED化を進めていく。

小中学校も2013年度から新築・改修工事にあわせてLED化を進めていて、校舎内照明、体育館高天井照明、体育館舞台照明、校庭照明のLED化を進めており、29%がLED化された。2028年頃までに小学校49校、中学校25校のLED化を予定している。

街路灯は、2018年度末時点で約76%LED化を進めている。小型街路灯は2011年、大型街路灯は2017年度からLED化を進めている。商店街などの装飾街路灯も引き続きLED化を目指して着実に進めていく。

公園灯は2014年から取り組み、現在までに全体の約75%をLED化した。2020年には100%にする予定で進めている。

(田中充 会長)

続いて報告事項について、報告事項1から3まで環境政策課から報告をお願いする。

(須藤純二 環境政策課長)

報告事項の1、平成30年度の環境基本計画の指標の進捗状況について報告する。

柱1の地球温暖化・エネルギー対策について、1-1、省エネを心がけている人

の割合は、目標値が70%に対し45.8%である。質問の仕方もあると思うが、伸びていない状況である。1-2、再生エネルギーの導入容量はグラフのとおり増加しており、目標値を超えた。1-3、熱中症で搬送される患者数は記載のとおりである。地球温暖化対策実行計画の指標でもある1-4、区内のCO2排出量は、グラフのとおり着実に減少している。

柱2の循環型社会の構築について、2-1、1人1日あたりの家庭ごみの排出量は、約10gずつ減っているのので、同じようなペースでいけば、目標値に達成すると思われる。2-2、資源化率は、ずっと横並びの数値できていて、目標達成は厳しい。2-3、区内のごみ量は、2024年度までに158,400tまで減らす目標に対し、昨年若干増加している。

柱3安全・安心で快適なくらしの確保について、3-1、工場等に対する公害苦情相談件数は増加している。公害などに対する区民の意識が少し変わってきているのかもしれないが、引き続き減少に向けて取り組んでいく。3-2、地域で自主的に美化活動をしている団体数は、着実に増えている。

柱4自然環境・生物多様性の保全について、4-1、生物とふれあう事業の参加者数、4-2、区民参加型の生物調査の参加者数はいずれも増えているので、これも目標に向けてがんばっていく。4-3、樹木被覆率は9.4%で、すでに目標値を超えている。

柱5学びと行動のしくみづくりについて、5-1、環境に配慮した製品を選んで使う人の割合は減少傾向である。おそらく実際には使っていると思うが、なかなか数値が伸びない。5-2、環境学習プロ

グラムに参加し、終了した人の数は順調に増えている。5-3、エコ活動ネットワーク足立の登録団体が実施した自主的な環境保全活動数は、今回、全登録団体にアンケート形式で数字を出したので、来年度以降も調査し、実態を把握できるようにしたい。

続いて、報告事項2、2018年度の区施設におけるCO2排出量ごみ量について報告する。

対象施設は区の本庁舎を含めた、区の公共施設全般である。2018年度のCO2排出量、ごみ量、電気・都市ガス使用量は記載のとおりである。ごみ量と都市ガス使用量が前年度に比べ、若干増えている。CO2排出量は前年度から若干減ってはいるものの2013年度比では4.1%増えている。

電気使用に伴うCO2排出量の算定に用いる排出係数は、各電力会社が調達する電力の発電方法に左右され、毎年変動している。例えば表の中のエネサーブは、2016年度と2018年度で排出係数がかなり変わっている。こうした影響で、実際に電気使用量は減っているが、係数の関係でCO2排出量が増えている。

2018年度に都市ガス使用量が増えたのは、設備改修で2017年度閉鎖していた本庁舎内のホールが通年で利用可能になったこと、清掃工場の点検でスイムスポーツセンターに熱が供給されない期間が長かったことが影響している。

ごみ量が増えたのは、保護者が持ち帰っていたおむつを2018年11月から保育園が廃棄することになり、保育園のごみ量が前年度比約2割増えたということが影響している。

次に報告事項3（仮称）エコアイデア

募集事業について報告する。新規事業で具体的な中身を詰めている段階なので、概要だけ説明する。

区民や事業者からエコアイデアを募集して、それを共有し、実践してもらうことを考えている。

10月が3R推進月間、11月がエコドライブ推進月間、12月が地球温暖化防止月間なので、これとあわせてPRをしながらエコアイデアを募集したい。賞も考えているが、まだ概要であり、具体的なことが決まったら、改めて報告する。

報告は以上である。

(田中充 会長)

資料の2ページから10ページまでの報告について、ご意見などがあればお願いしたい。

(ぬかが和子 委員)

エコ活動ネットワーク足立に登録できるのは団体のみである。環境基本計画をどれだけ進めていけるか、成功できるかは、区の基本構想である協創のプラットフォームとして、環境分野で多くの団体や環境に関心のある区民が一同にサイトで見ることができ、参加できるプラットフォーム作りが一番大事ではないか。

EANAは、関心のある個人が参加したくても団体ではないから参加できない。一方で環境マイスターなど、一生懸命勉強した方もいる。関心をもっている方みんなが参加できるようなサイトとかイベント情報とか、そういうプラットフォームを作っていく。指標に直接つながらないかもしれないが、このことが環境基本計画を進めていく鍵になると思うので、ぜひ進めてほしい。

(須藤純二 環境政策課長)

EANAの活動内容も見てきたが、横

のつながりが希薄である。環境は幅広い分野なので、同じ目標に向かって取組むことはなかなか難しいと思う。委員の発言にあった協創のプラットフォームを作るため、これから動き出したいと思う。

ただ、単純に目標を掲げて集まるのではなく、みんなで話し合っ、自発的に取組みたいことを呼びかけて、団体、個人、企業、NPOとのつながりを少しずつでも広げられればよいと思っている。これから来年に向けてやっていきたい。

(小泉俊夫 委員)

屋上が暑いので、穴があいた網の遮光ネットを1mくらいの間隔で取り付けた。昨日台風がくるので、はずしたら、今日はとても暑くて、いかにネット1枚で、省エネになるかがわかった。

おかげさまで経営がうまくいっているので、利益をどこに使おうかと考え、工場に新しいクーラーを入れた。業者に1台入れ替えたなら電気代はどのくらい違うか聞いたら、三分の一になるといふ。さらに以前は使っていた扇風機や小さいクーラーがほぼいらなくなった。

企業がアイデアを出す、例えば足立区が古いクーラーを替えるならお金出す、電気代が三分の一になるとすれば、5年でもとはとれないかもしれないが、利益が出ているなら経費で落とせるので、いいと思う。アイデアコンテストはどんどんやったらいい。

(田中充 会長)

屋根にマットひくのは、アイデアコンテストに出すといい。

私の理解では、エコ技術の開発に基金があるので、きちんと科学的、学問的にどのくらい気温が下がるか調査、研究に結びつけられれば、そういう基金の活用も可

能かもしれない。大学や研究機関といっしょにできればいいと思う。

(小泉俊夫 委員)

電気量を前年度対比で比較する。ただ、クーラーを変えたので、去年とは比較にならないかもしれない。

(田中充 会長)

そのときは、外気温との関係もきちんと分析する必要がある。

それからエアコンの入れ替えについて補助や助成の制度があったと思うが。

(須藤純二 環境政策課長)

今でも省エネ家電ということで、エアコン、冷蔵庫などの助成があるが、事業者は対象でない。

(古地八重子 委員)

私は環境マイスターの1期生だが、たくさんの方がマイスターになったが、活動の場がイベントのときぐらいで、なかなか活かす場がない。みなさんどうしたらいいのか分からなくて区からの依頼を待っている状況である。

これまでは区役所で集まっていたが、貸してくれなくなったので、芸術センターになったが、私は遠くて行けない。人数の関係で、5人以下だと開催しない。活動したい人はいるが、自分たちがどう動いていいか分からない。宝の持ち腐れ的な感じになっているので、活用してほしい。

(須藤純二 環境政策課長)

人の見える関係作りをもう一度構築し、活動しやすい、自分たちからそう思える環境づくりを区がしないといけないと思う。全員が集まることは難しいと思うが、機会を設け、自分たちがやりたい活動を、仲間を見つけられるようにしていければいい。少し時間をいただきました

い。

(茂木福美 委員)

私もエコ活動ネットワークに団体登録し、メールで他の団体の活動を知らせてもらっている。ただ、日にちの都合などもあって、なかなか参加できないが、情報をいただくことはとてもありがたい。自分たちの活動もよそに知らせてもらいながら、できる活動を私たちはしていきたい。

(田中充 会長)

横への情報提供が重要である。おそらく区のホームページには、環境活動以外にもいろいろ活動があつてまぎれてしまうので、それを一律で見られるようなサイト、そこにアクセスすればいろんな活動、特に環境のいろんな活動が一覧で見られるものがあると利便性が向上すると思う。違う部署かも知れないが検討いただきたい。

私から2点伺う。

省エネを心がけている人の割合や、環境に配慮した製品を選んで使う人の割合はどのように調査しているのか。アンケートで把握していると思うが、その実態を教えてほしい。

2つ目は、区が電力を調達している事業者の中には、2016年に比べて2018年のほうが随分排出係数が高くなっているエネサーブのようなところもある。この場合は、当初の契約時点では低くても、2年目、3年目になったら上がってしまうと区の排出量が非常に増える。ある程度排出係数が高くなったら、解除するなど、契約書の内容や方法を含めて検討するのはどうか。最初はいいが、どんどん高くなるのはよくないので、一定の制約の要件をつけるなどの工夫ができるとい

いのではないか。

関連して、区の全体的な電力使用量が8ページに出ているが、電力会社ごとにどんな割合になるのか。

(須藤純二 環境政策課長)

省エネを心がけている人の割合と環境に配慮した製品を選んで使う人の割合は区の世論調査の結果である。聞き方を途中で変えると今までのものと比較できなくなるので、同じ調査方法としている。

排出係数については、契約時の数字は前々年度の実績になると思う。しかし、実際にこれだけ係数が変わるのは非常に問題があると思うので、契約担当とどういった形ができるのか聞いてみたい。

(小山秀一 環境政策課計画推進係長)

3つ目の質問について、区の電気使用量60,959,554kWhのうち、東京電力エナジーパートナーが34,438,770kWhで、それ以外の26,520,784kWhのうち、Fパワーが一番多くて11,454,906kWh、エネサーブは8,099,171kWhである。

契約と排出係数に関しては、環境省の基準があってそれに区も準じている。電力会社の競争を促さないと価格が安くないので、環境に配慮しながら、適切な競争を促すような仕組みにしている。しかし、契約締結後のことが定められていないので、どのような対応ができるか検討したい。

(田中充 会長)

東電が6割弱でその他の事業者が4割強ぐらいか。

(小山秀一 環境政策課計画推進係長)

その通りである。ある程度規模の大きな事業者でないと供給ができないこともあるので、対応できる事業者が限られる。

(枝光弘味 委員)

熱中症で搬送される患者数について、私の実感では、今年は結構多いと思う。道端で倒れている人や、トラック運転手がグッタリしていて、助けに来ている例もあった。

今年の統計が出ているようであれば教えてほしい。また、2015年度が少し多かったが、そのときの様子がわかれば教えてほしい。

(田中充 会長)

今年度の熱中症の搬送者の実績は、まだ出ていないか。

(小山秀一 環境政策課計画推進係長)

6月から9月まで東京消防庁でまとめているので、まだ確定値は出ていない。

(工藤信 委員)

8月までは昨年度の3分の2以下だったと思う。

(田中充 会長)

全国レベルでは、総務省消防庁のサイトに熱中症の搬送者数が出ている。梅雨明けの一週間ぐらいがものすごく多く、だんだん体が慣れてきて落ち着く。特に昨年は7月中旬くらいからものすごい暑さが続き、熊谷市で41.1℃の最高気温を記録したのが7月23日だった。その前後にもものすごく熱中症が多かった。

2015年度に多かった要因は何か。

(小山秀一 環境政策課計画推進係長)

ちょっとわからない。

(田中充 会長)

では、担当に問い合わせる報告をお願いしたい。それでは、報告事項4と5について報告をお願いする。

(太田照生 ごみ減量推進課長)

11ページ、一般廃棄物組成調査結果と食品ロス削減に向けた取り組みの強化

について報告する。

毎年一般廃棄物の組成調査を実施している。だいたい5月から6月にかけて実施し、家庭から出るごみと、排出量の少ない事業系のごみが若干入っている。今回は食品ロスについて、重量割合及び期限内廃棄割合を調査した。

家庭から排出された食品廃棄物、生ごみの重量の内訳は、表1のとおり調理くずが一番多く約78%、調理されずに捨てられたもの、直接廃棄が17.4%、食べ残しが1.2%だった。

問題はやはり、調理されずに直接捨てられる直接廃棄である。直接廃棄のうち、全くの手付かずで廃棄されたものが62.8%と非常に多い。以下50%未満残存か50%以上残存か、それぞれの数字になっている。

直接廃棄された食品が、どのくらい期限を残して捨てられたかを調査した。全体の個数は1551個、期限以内のものが16.5% (255個)、期限不明も約4割近かった。期限以内に廃棄されたものに7日以内も含めると全体の約3分の1だった。期限以内に廃棄された食品種別の内訳は、菓子類、珍味類が約43%、加工食品・惣菜類等32.2%と多くを占めている。

平成30年度に実施した世論調査の結果によると、食品ロスという言葉を知っているのは、全年代では7割強だが、20代は男女とも約5割しか知らないという結果が出ている。

次に食品ロスのために心がけていることは、残さず食べるが7割強、大根の葉など捨てるものがないよう調理を工夫するが約3割弱となっている。

これら組成調査、食品ロスの世論調査

の結果を踏まえ、啓発チラシを作成したい。若年層の食品ロスに対する認知度が低いので、中高生、大学生をターゲットとして啓発のチラシを作っていく。フードドライブのご案内も内容に加え、12月を目処に約2万2000部作成したい。ちなみに昨年度のチラシは、自治会等の回覧でも回し、いろいろなところで配布した。

続いてフードドライブの常時受け入れ窓口の拡大について報告する。今まで「ごみ減量推進課」「足立清掃事務所」「足立再生館」の3か所で未利用食品を受付けていたが、今回「生涯学習センター」と「花畑地域学習センター」でもフードドライブの常時受け入れをすでに開始しており、現在5か所でフードドライブを受け付けている。

賞味期限が2か月以上ある食品を預かり、NPO活動支援センターでこども食堂や区内の教室などに提供している。賞味期限の長いものはNPO活動支援センターに回し、比較的短くなったものはセカンドハーベスト・ジャパンというNPOに回している。

(祖傳和美 生活環境保全課長)

報告事項5、不法投棄対策強化期間の前倒しについて報告する。

10月からの消費税アップで家電製品の買換え需要が高まることから、不法投棄を警戒している。通常12月を強化月間としているが、10月から前倒しにして、10、11、12の3か月間不法投棄対策を強化する。

不法投棄の処理個数は2番に記載のとおりで、家電製品が去年に比べて増えている実態があるので、あわせて対策していきたい。

不法投棄通報協力員登録数は、9月9日現在で1733名になった。

4番のカメラ型センサーライト貸出数は9月9日現在94個で、順調に増えている。

15ページの具体的な不法投棄の強化項目で、簡単に説明する。

北千住のペDESTリアンデッキと庁舎アトリウム、バスロータリーに期間中に横断幕懸垂幕を掲示している。令和バージョンとして、新しい令和の時代にふさわしいデザインを考え、飾っている。横断幕等は10月から掲示する予定である。

新製品であるカメラ型センサーライトや防止シールの貸出しを行っている。

また、あだち区民まつりに出展して、通報協力員の募集、お友達紹介キャンペーンなどで大量に獲得したい。

ごみ減量推進課では、不法投棄の多発重点地域に夜間・早朝に青パトで出勤してもらい、対策を強化したい。

交通対策課に不要自転車引取り制度があるが、10月から4か所増やして、8か所から12か所にして対応する予定である。竹の塚の自転車の引き取りか所を4か所増やしている。

以上のとおり、多くの職場で一斉に取り組んでいく。

(田中充 会長)

資料の11ページから15ページまでの説明ご意見等があればお願いしたい。

(茂木福美 委員)

私たちの集積所に布団のような不法投棄があり、誰も持っていかず、そのままになっている。収集できないというシールが貼られたままだったので、清掃事務所に電話した。一週間経てば持っていく

ので、それでもダメだったら電話くださいと言われた。その後、持っていったのでありがたかったが、不法投棄をする人に会えないので、ダメだと言えない。本来、粗大ごみとしてお金を払って持って行ってもらはずなのに、清掃事務所にも手数をかけるような無駄なことが最近あった。どうしたらいいのか。

(大谷博信 足立清掃事務所長)

これまでは、シール貼って残しておき、捨てた方が気づけば引き上げてもらい、引き上げてもらえないときは、我々が回収していた。さらに、まわりにビラを配ったり、近所に聞き込みをしたりして、捨てた人を特定し、直接注意するように、対策を強化している。

みなさんといっしょに不法投棄をなくしていきたい。

(工藤信 委員)

そういったところには防犯カメラを付けて、管理をするようにしているが、なかなか手が回らない。

(田中充 会長)

集積所などに不法投棄が出た場合の手順を定めているのか。

(大谷博信 足立清掃事務所長)

収集しているときに大きな不法投棄を見つければ、まずはシールを貼って、ダメなことを知らせ収集しない。そのシールで半分ぐらいは引き上げてもらえる。しかし、残りの半分は、だいたい一週間を目安にわれわれが引き上げている。ただ、危ないものなどがあれば柔軟に対応している。

手順としてはシールを貼って残す、それでも一週間待っても残っていたら引き上げる、さらにまわりにビラを配ったり、聞き込みをしたりして見つける。

あわせて必要なところがあれば防犯カメラを設置していく。

(田中充 会長)

確かにすぐ収集すると、不法投棄しても引き取ってくれると誘発してしまう。ある程度時間をおいて、不法投棄であることを伝えなければならない。そのあたりは微妙だ。不法投棄の物が残っていると、ここに捨てていい、ごみのごみを誘発するようなこともあるし、その対処の仕方が難しいと思う。

(大谷博信 足立清掃事務所長)

残すことで一定の効果はあるが、危ないものなどは、柔軟に対応している。

(古地八重子 委員)

ごみの集積所ではない暗い場所に家電や掃除機が捨てられて、近所の人困っている。防犯カメラは、ある程度基準を満たさないとならないので、高齢者ではなかなか大変で、最終的に防犯カメラをつけることになったが、付けるまでが大変だというのを聞いた。

(祖傳和美 生活環境保全課長)

区で防犯カメラを一体管理しようということで、柔軟に対応しているが、どこにつけるか、一回一回会議を開いて決めなければならないので、要望があったからすぐ付けるわけにはいかない。ただ、困っている様子、例えば何回捨てられた、いつ捨てられた、そういう数が多いほど付けやすい。

今すぐにという場合は、カメラ型センサーライトを貸せるので、看板やシールとあわせて使うと効果が出ると思うので、ぜひ利用してほしい。

(工藤信 委員)

若干補足する。

個人情報の関係で、普段誰でも見える

状態ではないところでカメラの管理をしている。最終的にカメラを屋外に1070個付ける計画であるが、今はまだ半分もいってない。ところが1070個付けても23区の中でまだ少ない。面積あたりの平均では、もう少しカメラを付けていく必要があるので、もし必要なところがあったら、ぜひ言ってほしい。

(田中充 会長)

防犯カメラはプライバシーの関係もあって、微妙なところもあるが、抑止力や犯罪が起きた際の追跡に効果があるようだ。実際は、どう運用したらいいか微妙なところではある。

(水野あゆみ 委員)

家庭から排出された一般廃棄物の調査を見ると、期限内だったり、7日以内だったりするものが多いが、これはどのように調査方法だったのか。

フードドライブの受入先拡大はいいと思うが、毎月どれくらい持込まれているのか。また期限はどれくらいなのか。2か月以上あるものが対象になっているが、2か月未満で、持って帰るような例があったのか。

食べ切れなかったものや、いらぬものの期限を見ると2か月もない。2か月以上ということもあり、本当に近い場所がないと、なかなか持っていくことに至らないと思うので、フードドライブの受入先も各地にあってもいい。実際にはどのくらいの持込まれたかを知りたい。

(太田照生 ごみ減量推進課長)

まず組成調査は、600世帯数から燃やすごみを集め、その袋を全部開けて広げて分別して調査する。600世帯には、家庭から出るごみと小規模事業者のごみも含まれている。事業系の有料ごみシール

を貼って出しているごみも含まれた調査になっている。

その600世帯のごみを毎年同じところから持ってくる場合と、年度ごとに新たに場所から持ってきている場合もある。それを全部集めて中身を調べる。

今回の食品ロスの調査は、直接廃棄、食べ残しなど細かい分類をしている。これは平成30年度に環境省が出した食品ロスの組成調査の手順書に基づいているので、難しい言葉も入っている。

(田中充 会長)

調査時期はいつごろか。

(太田照生 ごみ減量推進課長)

5月から6月にかけて調査した。

(田中充 会長)

例年、同じ時期か。

(太田照生 ごみ減量推進課長)

同じ時期である。

次に、フードドライブの量は、だいたい年間で250キロ、一か月で約20キロ。ごみ減量推進課が最も集まる。

期限は、基本的に預かってNPO活動支援センターに持っていき、そこから区内の子ども食堂に行くので、2か月以上おかないと、回らなくなってしまう。

せっかくいただいたのに廃棄するわけにいかない。NPO活動支援センターは、区内の子ども食堂、区施設に配っているので、なるべく期限の長いものがほしい。民間の組織セカンドハーベスト・ジャパンは、賞味期限があれば配るので、期限が短いものはそちらになる。

(中村重男 委員)

食品ロスの世論調査で、食品ロスを知っている20代が5割台である。それで啓発のターゲットが中高生と大学生で、将来的には効果が出てくると思う。20

代の未婚の人たちの取組みで、学校を通じて配布することは、将来的には有効だと思う。

しかし、結婚している社会人は夫婦間の中で話し合われると思うが、未婚の男女にあんまり認識がないと推測される。そこに対する啓発というのが、即効性と将来性の両面から取組むといいと思う。

(太田照生 ごみ減量推進課長)

今回は啓発チラシのターゲットを若年層に絞った。昨年作ったチラシは主婦層を対象にしたので、今回は若年層をターゲットにした。また、世論調査結果も考慮して、今回はこういう絞込みにした。20代は、結婚している方もいるし、普通だと20代前半で学生が終わるので、なかなか絞り込むのは難しいが、将来的なことも含めて若い層に啓発していくという絞込みをした。

(工藤信 委員)

若者向けは紙なのか。

(田中充 会長)

チラシなので、紙だろうと思う。

(工藤信 委員)

若者だったらSNSなどを使った方がよいので、検討してほしい。

(川口弘 環境部長)

今はまだ若年層に届いていないことが見えてきたので、そこをターゲットに絞って何かできないか。頭ひねるので、ぜひお知恵を拝借したい。

(中村重男 委員)

フードドライブの受入窓口が非常に限定され、身近なところがない。例えばスーパーに期限内のものを持っていき預かってもらい、それで新しいものを買うようなしくみは考えられないか。そうすると回るのではないか。

(川口弘 環境部長)

調べたわけではないが、各チェーンストアも、賞味期限が短いコーナーを設けたりしていることは、よく耳にする。セカンドハーベストに持込んでいるストア協会もあるようだ。

ただ個人が持っていくのは私も今のところ聞いたことがない。われわれもフードドライブを運営するときに、食べ物なゆえに、もしなにか加工されていたらまずい。非常に扱いがなかなか難しく、そこまで手を広げられないのがまだ実情だと思う。そういう事例が出てくれば勉強して、対応したい。

たぶん事業者もそういう意識があると思う。口に入るものを、責任を持って最後まで管理するのは、なかなか難しい。

(中村重男 委員)

缶詰などは、まだ保存性があるので可能かもしれない。

(田中充 会長)

ご提案もひとつの選択肢としてあると思う。事務局が答えたように安全性のことだとか、お店からすると商売と混じるので、ためらうかもしれない。そのあたりは、お店と接触したらいい。

(土屋のりこ 委員)

台湾や香港、イギリスでは、レストランなどに町の冷蔵庫というものを置き、そこに食べられないものをフードドライブとして入れてもらっている。スーパーでは売っているものと混ざるので、どこがいいのか。何かしらのやり方があるし、世界には町中で取り組んでいる例もあるので、研究しがいがあると思う。

(田中充 会長)

もう少し近いところにあったほうがいい、できるだけ持込める場所が近くにあ

れば、気軽に出せるという意見はそのとおりだと思うので、検討してほしい。他にいかがか。

(佐藤強士 委員)

LEDの件について、区の工事課がうちの町会に来て、防犯灯をLEDにしてはどうかと提案されたので、LEDにしてもらった。本当にありがたかった。ただ、その申請がとかややこしい。すぐにはお金が出ないので、結局9万ぐらいかかる。それを9割ぐらい負担してくれるが、その間立て替えなければならないので、町会として電気屋にお願いした。

(須藤純二 環境政策課長)

町会を対象に防犯灯のLED化を進めているので、そのお話だと思う。

(工藤信 委員)

事業者に直接支払いしていなかったか。立替えが必要なのか。

(小泉俊夫 委員)

事業者と交渉して後払いにできるかどうか。

(須藤純二 環境政策課長)

今のお話はホールとか全部立て替えてりして新設するものだと思う。

(佐藤強士 委員)

まだ書類ももらってないし、決定もしてないので、わからない。そういう話があったということで、大変ありがたいと思う。

(小泉俊夫 委員)

前に家庭から出る燃やすごみのうち、資源になる紙ごみが、確か十数パーセント含まれていることを聞いた。

そこで会社の紙ごみを袋に入れて紙屋へ毎週行って、個人情報に記載してある紙を出す、自分ところで紙を破いている。何か工夫して、お金がかかるかもし

れないが、個人情報適切に処理するので、資源として出せるといって、だいぶ減ると思う。何かいい方法がないかと思って考えている。

ごみの作業をする方は、きちんとごみの分別をするため、個人情報に触れる理由ができてしまう。例えば、私が年中健康食品を買っているとか、通販で年中届く請求書とか、いずれにしても触られたくないことを知る可能性がある。

それはきちんと分別するためだが、なにかいい方法はないか。個人情報を含むごみは結構な量が出る。全部シュレッダーしてしまうが、なにか良い方法があればと思うが、なかなかいいアイデアが浮かばない。

(川口弘 環境部長)

答えになるかどうか自信がないが、事業者に紙のゴミを渡したあとは、そこから漏洩することはほぼない。ヤードに持ってそのまま開けて、どんどんリサイクル業者に渡っていくので。

問題は自分の束を目の前に置いて、それを誰かに見られること。そこを大丈夫な管理体制になっていけばよい。私はマンション住まいなので、保管のところに収集の日に出せば、大丈夫だと思うので、私は資源に入れてしまっている。

区の案内は、シュレッダーして燃やすごみに出す、資源には回らない。今のところそうになっている。シュレッダーで裁断したごみをリサイクルできる技術はあるにはあるが、それをどこまで採用できるか、検討するところである。

(小泉俊夫 委員)

シュレッダーは細かく切りすぎると繊維を切ってしまうので、資源にするにはあまり良くない。

(工藤信 委員)

最近では資源にできる技術もあるようだ。

(小泉俊夫 委員)

持っていった先でデータが見られてしまうことを心配しているので、そのところが担保できればと思う。データを見たり、漏洩することはありえないときちんと公表すれば、多少違ってくると思う。

(川口弘 環境部長)

今は、完全に保障できないので、聞かれば個人情報は資源とは別となる。区役所もそうだが、出した側が追跡して、溶かす処理や、リサイクルに回すという業者を見に行く、そこまでしないと厳密には担保できないと思う。

(小泉俊夫 委員)

難しい問題だ。

(田中充 会長)

8ページに、区のごみ量が年間2312tとあるが、この中で紙ごみの量はどのくらいか調べておいたほうがいい。

家庭から出るごみに含まれる紙ごみの量は、いまどのくらいか。

(太田照生 ごみ減量推進課長)

組成調査の結果で、古紙類に分類すると今年は15.1%。

(田中充 会長)

おそらく役所などになると結構なごみが出てくると思う。そういう事業者から出てくる場合にいろんな情報があるので、注意しないといけない。

(小泉俊夫 委員)

私は事業者のことではなく、個人宅のことを言った。会社はきちんとやっている。家庭から出る紙を資源に出していない理由として、個人情報があると考えている。

(田中充 会長)

個人の関係なら、やはり個人の範囲で防衛する以外ない。つまり、振り分けるときに自分の判断で、これは見られたくないというなら、切って可燃ごみとして出すしかない。

(川口弘 環境部長)

名前のところだけ切って。

(田中充 会長)

私も基本的にそうしている。

(小泉俊夫 委員)

難しい話だが、うまく個人情報防衛になるようなものができればよい。

(須藤純二 環境政策課長)

先ほど、質問のあった2015年の熱中症で搬送された患者数について、東京消防庁のホームページによると、2015年は梅雨明け後から急増していて、7月31日から8月7日まで8日連続で猛暑日を記録し、気温が高くなった日に救急搬送が多くなったと記載されている。全国的にも暑い日が多くて、2015年度は全国的で比べてもデータとして多くなっている。

(田中充 会長)

梅雨明け一週間くらいは気温が高いので、そのとき熱中症が増える傾向にある。

(工藤信 委員)

昨年から環境省の高温情報を区でも流している。あとは、特に暑い日にプールを使用しないようにしたり、外出しないように知らせている。

(ぬかが和子 委員)

去年から暑さ指数31℃以上で、シルバー人材センターは、給料を保証して、作業をやめてもらったそうだ。

(田中充 会長)

事務局にお願いするが、その年の30℃以上、35℃以上の日数がわかれば、熱中症のリスクと搬送者数が対比できる。そのように資料を工夫してほしい。

(中村重男 委員)

私はいくつか審議会に出ている、事前に資料が送付されてくるが、当日また資料が配布される。もったいないので、前々回事務局に話したが、また出て来て、同じことをしている。

資料が多くて分厚いし、20数人の会議なので無駄になる。事前に見ているので、当日新しいものをもらっても参考にならない。もし変更点があれば変更点だけのページを追加で出してくれればいい。会議や審議会の運営、やり方を区で徹底していただきたい。

(川口弘 環境部長)

貴重なご意見として、ペーパーレスを先導している部署に伝える。

(土屋のりこ 委員)

環境審議会でも、これだけ紙を使うのかと改めて思う。議会でiPadを配られて使ってみると、便利で、結構使えるので、いきなりなくすことはできないと思うが、同時にデジタルデータでも配信してはどうか。前回の議事録は、紙ではなくデジタルデータでいいと思う。事前の送付資料もPDFでいいと思うので、試行的にデジタルデータでも配付するなど、どのようにペーパーレス化していくか、検証してほしい。

(田中充 会長)

若い方はデジタルデータに抵抗がないかもしれないが、やっぱり紙のほうがいい、両方ほしい等、いろいろな意見がある。個人の希望で選択できるとよいかもわからない。

よくあるパターンとしては資料を会社に送るか自宅に送るか選択できる仕組みがある。同じようにデジタルデータがいか、紙がいいか、選んでもらう。意見を参考にいろんな工夫をしてほしい。

それではひとまずここまでとし、次に、事務局から願います。

(須藤純二 環境政策課長)

お手もとに配付した反射材の資料とキーホルダーは、小泉委員の会社、株式会社ヨシオが、地域事業者との連携で、交通安全と環境の取組みの中で作成したものである。小泉委員から概要の説明をお願いします。

(小泉俊夫 委員)

たまたまホームページでペットボトルのキャップ集めていることを知り、インターネットで検索したら、かなり批判が出ていた。車を使って排気ガス出して集めても仕方ないなど、後ろ向きの話ばかりだった。

せつかくいいことをしているのに、何かできることはないか。私は、日本反射材普及協会の理事長で、交通事故を減らそうとしているので、何かに使えないかと考えた。

環境部から足立ブランドの進栄化成株式会社を紹介してもらい、連絡したところ、私の会社も足立ブランドなので、話がとんとん拍子に進んだ。

ペットボトルのふたを粉砕すると、粒になる。素材を分けずに混合してしまうとかなり程度の低い樹脂になってしまう。進栄化成は、区からの融資を受け、素材を分ける技術がある。

粉砕したものをそのまま機械が圧をかけて、冷やして形にするが、釘などの不純物が含まれているので、そのまま入れ

ると機械を壊してしまう。そこでペレット状にするが、またこの樹脂を溶かす。粉砕したものを水の中に通してから切る。しかもいろんな色が混じっているので、黒っぽい色になってしまう。

そこで、私が考えたのが、実際に粉砕したものをこの状態で交通安全の反射材を作った。粉砕したものを成型したらたまたまこの色になった。足立成和信用金庫が交通安全に寄付するというので、さっそく先週の金曜、ギャラクシティーの交通安全フェスティバルで活用した。4つの警察署が集まって、足立成和信用金庫が1500個寄付してくれた。行列ができて取り合いになるほどだった。

廃材が活用の事例として、みなさんにサンプルをお渡しした。これを作るのも、ひまわり園という障害者の人たちで、環境と交通安全と福祉を結び付けている。足立区の企業が努力し、足立区で集めたものが交通安全につながるというストーリーを考えている。

この反射材をカバンなどにつけておくと57m先に見える。57m先で車から見えないと間に合わない。車のライトは40m先を照らしているので、スピードが60kmだとすると、44m走ってしまうという理論があるので、57m先まで見えるものを選んでいく。

(大峽廣男 委員)

この反射キーホルダーはペットボトルキャップ2個でできるのか。

(小泉俊夫 委員)

そのとおりである。

(田中充 会長)

とても貴重で意義があると思う。環境、リサイクル、交通安全、福祉、事業者も関わるとてもいい取組みだと思う。

(小泉俊夫 委員)

環境、エコといいながら、逆にエネルギーを消費し、CO2を出してしまうことが多いと、ネット上で批判されている。批判するなら、何か考えてほしいと思いい、いい方法を思いついた。

(田中充 会長)

たしかにペットボトルのふたは、なかなか処理に困っている。多くの方はつけて出すが、リサイクルの現場では外している。分離して出せば、リサイクルしやすくきれいなプラスチックになる。

それでは次にその他、事務局から願する。

(須藤純二 環境政策課長)

長時間ご審議いただき、お礼申し上げます。区議会選任を除く委員は今回をもって任期が満了する。事務局を代表して環境部長の川口からあいさつさせていただきます。

(川口弘 環境部長)

2年間の任期満了にあたり、改めて感謝申し上げます。この2年間、審議の中で、災害廃棄物など結構難しい審議事項もあり、環境基本計画の指標の報告をしたが、以前に諮問して、答申いただいた環境基本計画の中身をきちんと進捗管理をしていくことは、基本中の基本だと思う。今日は、この議論を活発にさせていただいた。環境審議会は毎回、積極的にご意見をいただき、時間がなくなるほど積極的に対応していただき、事務局としましてもお世話になっており、感謝申し上げます。

これからも足立区の環境のことを見ていただき、何かあればご意見いただきたい。

(田中充 会長)

今回が今期最後ということで、各委員から一言ずつ感想など述べていただいて、この2年間の締めくくりをしたい。

(佐藤強士 委員)

環境はいろいろな方面の問題があり、私の勉強不足もあるが、勉強させてもらった。2年間ありがとうございました。

(茂木福美 委員)

私も環境にいろいろ携わり、この審議会に出て、勉強させてもらった。ありがとうございました。

(枝光弘味 委員)

長いようでもごく短く、あっという間の2年間だった。一連の流れを分からないまま参加したが、諮問から答申までの流れの中で、結論を出すことに関わったことをすごく大事にしたい。また、それぞれの委員の発言がすごく勉強になり、環境といえどもそれぞれの立場からみるとまったく違った角度があった。そういうことを同じ区民にも発信したいと思っている。

2年間でそれが学べたので、次も公募委員に応募したかったが、期限切れで応募できなかった。また機会があれば、応募して勉強させていただきたい。2年間ありがとうございました。

(中村重男 委員)

2年務めたが、素人なので、いろいろ出てくるテーマ、資料を事前にわからないところはネットで調べ勉強してきたつもりだ。環境問題は非常に先の長い話で、いますぐなにかできるかという、そうでもない。一方で先の長い話だが、ごみを減らすなど、身近なところからできることも非常に多い。そういうところを子どもたちに認識してもらいたい。

将来の地球温暖化という壮大な問題が

あるが、そういうところに向かった取組みを小さい子どもたちからこつこつと取組んでいけば、と思う。2年間ありがとうございました。

(古地八重子 委員)

私は2期も務め、みなさんの意見をきいてすごく勉強になった。これだけみなさんが足立区を良くしようと思っいろいろ考えているのに、区民の意識がなかなか向上しないが、結局CO2を削減しないと自分の身にかえってくる。今日のすごい台風は本当に温暖化の影響と感じたので、やっぱり身近なところから自分たちの生活を変えていけば環境もよくなることを本当に区民に知ってほしい。本当に2年間ありがとうございました。

(工藤信 委員)

私も昨年から久しぶりに環境審議会に出席したが、相変わらず活発に議論していて、貴重なご意見もいただいた。ひとつひとつ丁寧に応えていく必要があるし、また見えないものを長期的な視点で考えていくことが非常に重要になってくると思う。長期的視点に立ちながら、また引き続きみなさんにご協力いただきながら進めていきたい。

(小泉俊夫 委員)

私もこの審議会に出席して環境について興味をもち、非常によかった。

商工会議所の代表として審議会に出ているが、この審議会では家庭が中心になっている。私は足立区の異業種交流会の相談役もやっている。異業種交流会はだいたい零細企業から中小企業の間で家庭に近いので、これからは、商工会議所でも異業種交流会でも伝えていけるといい。私が試した遮光ネットも、いつかは異業種交流会とか商工会議所でも伝えて

いければと思う。

(大峽廣男 委員)

私も、会社の工場も本社もLED電気に替え、クーラーも全部、とりかえて電気代もずいぶん減らした。お金のかかることはみんなやったつもりだ。

新聞のチラシなどそのまま燃やすごみで出すと、区で何億も余分に費用がかかることを聞いて、全部分別している。

(戸苅建作 委員)

2年間ありがとうございました。役所のみなさん、資料をまとめ、また報告していただき、感謝申し上げます。また、いろいろと新しい問題もあると思うが、みなさんで話し合いをして少しでも町の中が良くなるようにしてほしい。

(田中充 会長)

私もあいさつさせていただく。

2年間、毎回活発なご審議をいただき、本当に感謝申し上げます。区民、事業者、それから自治会、議会の立場と、区の各層から、いろんな多種多様のご意見を反映していただき、かつ区民の目線を忘れないような形で審議ができたと思う。事務局にも頑張っていたいただいた。この2年間には、一般廃棄物処理基本計画と災害廃棄物処理計画の2つをまとめたが、この中にもみなさんの意見がきちんと反映していると思う。

もしまた機会があつて、この審議会に戻るときは、活発にご参加いただけたらありがたい。私からは本当に御礼の言葉ばかりである。

どうもありがとうございました。

それでは、これをもって令和元年度第2回足立区環境審議会を終了する。

(会議録署名)

令和元年度第2回環境審議会会議録記録署名員
(令和元年9月9日 開催)

会 長	田 中 亮
署 名 委 員	枝 光 弘 味
署 名 委 員	大 塚 廣 男